

---

# 箱を満たすモノ

和泉由貴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
箱を満たすモノ

【Nコード】  
N6287C

【作者名】  
和泉由貴

【あらすじ】  
ふとした時に響く言葉。ほんの少しでも満たされる時がある。

**(前書き)**

作者が衝動的に書いてそのままの勢いで掲載してしまいました…。

人は箱を抱えて生きる。中身を満たすモノはー！。

「上手だね」

ただ、その一言だけで救われた気がした。

昔から特別目立つ子じゃなかった。

何事にも人並みかそれ以下で特技と呼べる物は何も無く、苛められたりはしていなかったけれど小学校に通っていた頃はその場に居続けるのが辛くて仕方なかった。

卒業して、全てから解放されたような気がしてはしゃいで、失敗して、派手に転んだー！。それでも笑った。

中学の私は馬鹿で無邪気で幸せだった。楽しくてその先の未来なんて考えたくなかった。ずっと此処に居たかったー！。

それでもやっぱり終わりは来て、私は高校に入った。

そこはみんなキラキラしていて、私は初めて自分のくすみと空っぽさを自覚した。

『何一毛無イー』』

小学校時代に逆戻りしたみたいだった。

人の目がひたすら怖かった。輪に入りたくせに自分から手を拒んだ。空っぽだと言われるのが怖かったから。

壁を作って閉じこもった。そうして壁の隙間から羨ましそうに外を眺めている自分がいた。

そんな日のある授業の時間だった。私が作ったモノが褒められた。何故褒められたのか、誰がそう言ってくれたのかも忘れてしまったけれどー。

「上手だね」

ただその一言に救われた。

ただその一言が私の中を喜色に満たした。空っぽの私に中身をくれた。

『嬉シイ』

幸せだった。

私もいつかはそんな言葉を人に与えられる人になれるように、喜びを注いで上げられる人になりたい。

(後書き)

下手ですね……。お目汚しでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6287c/>

---

箱を満たすモノ

2011年1月16日03時34分発行